

# 1. 宮崎県の概況

## ◇ 地理・気象について

宮崎県は、九州の南東部に位置し、東西約 111km、南北約 160km にわたり、全国都道府県のうち第 14 位の広さとなっている。総面積の 7,735km<sup>2</sup> のうち、森林が 5,885km<sup>2</sup>(76.1%) を占め、農地は 668km<sup>2</sup>(8.6%) となっている。

### ■ 宮崎県自然条件 ■

	県内	総土地面積	耕地面積		気候				
			田	畑	快晴日数	日照時間	平均気温	降水量	
宮崎県	26市町村 (9市14町3村)	7,735km <sup>2</sup> (2.05%)	66,400ha (1.50%)	35,700ha (1.48%)	30,600ha (1.52%)	52.7日	2,116時間	17.4℃	2,509mm
全国順位		14位	20位	29位	15位	2位	2位	3位	2位

(出典) 市町村数：総務省全国地方公共団体コード(R元.5.1現在)、総土地面積：国土地理院「H30年度全国都道府県市区町村別面積調」  
耕地面積：農林水産省統計部「耕地及び作付面積統計」(H30年)、人口：2015年国勢調査、農家数：2015年農林業センサス  
農業産出額：農林水産省統計部「生産農業所得統計」(H29年)

### 宮崎県河川位置図



宮崎県内には、1,700m級の山々が連なる九州山地が、県北部から西部域までの広い範囲に広がり、南西部には霧島山(標高1,700m)を中心とする霧島火山群、南部は鰐塚山地と、県面積の4分の3が山地で占められている。山地の間を縫うようにして、五ヶ瀬川、小丸川、一ツ瀬川、大淀川などの河川が県の東に広がる日向灘(太平洋)へと流れ出ている。これら河川の土砂運搬作用によって、下流には宮崎平野に代表されるような沖積低地が形成された。日本の年間平均降水量が約 1,700mm であるのに対し、宮崎県は全域で年間 2,300mm 以上の降水量がみられ、日本の最多雨地帯になっている。宮崎県東部は年平均気温が 17℃ 前後で、日本の中でも温暖な地域に属している。

温暖な気候や十分な日照時間など優れた自然条件を活かした畜産や野菜、お茶などの農業生産が高く、日本の食糧供給基地としての役割を担っている。

## ◇ 農家・担い手について

宮崎県における平成 27 年の農家人口は約 8 万人で、総人口(約 110 万人)の 7.3% を占め、農業就業人口は、約 4 万 5,000 人となっている。農家数は年々減少し、また高齢化も進んでおり、基幹的農業従事者の約 5 割以上が 65 歳以上となっている。平成 29 年は新規就農者が平成以降で最多の約 410 人となり、新規就農者の半数が法人に就農している傾向となっている。

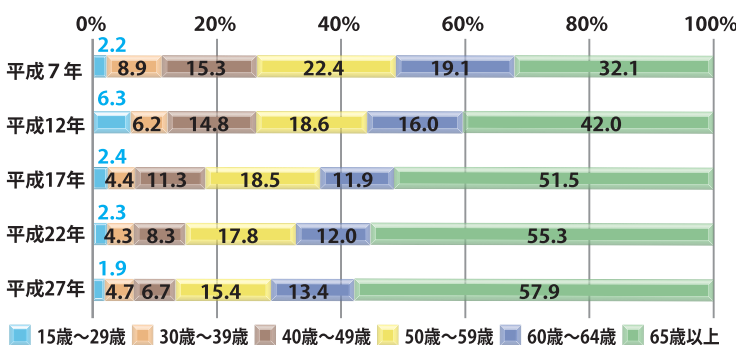
### ■ 人口等の推移 ■

宮崎県	単位	平成 7 年	平成 12 年	平成 17 年	平成 22 年	平成 27 年
総人口	人	1,175,804	1,170,023	1,153,042	1,135,233	1,104,069
農家人口	人	193,938	166,005	130,445	105,450	80,162
就業人口	人	582,549	566,981	552,738	531,213	519,210
農業就業人口	人	86,210	77,916	66,245	57,076	45,001

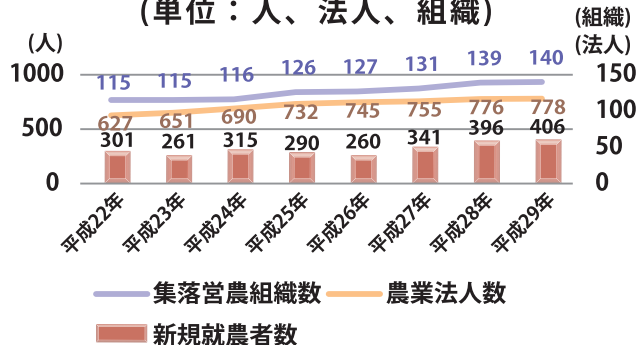
農家人口：農家(販売農家)の世帯員数。就業人口：職業に就いて収入を得ている人口数。

農業就業人口：15歳以上の農家世帯員のうち、調査期日前1年間に農業のみに従事した者又は農業と兼業の双方に従事した者の、農業の従事日数の方が多い者の人口数。

### 基幹的農業従事者の年齢別構成(男女計)



### 新規就農者等の推移 (単位：人、法人、組織)



(出典) 人口：2015年国勢調査、農家数：2015年農林業センサス  
新規就農者等の推移：宮崎県農政水産部「統計でみる宮崎県の農業2018」